



Title	懷徳堂堂友會記事
Author(s)	
Citation	懷徳. 1924, 1, p. 30-31
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88687
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

便なりしとの評高く歐米人に向つて一新生面を開きたりと稱せられ、故沈子培氏の如き東洋思想を彼地に輸入する上に於て多大の益を與へたりと頌せるほどなり、其他大學中庸の英譯もあり之れ又頗る評判好し、殊に如上の著書は更らに獨逸人に歡迎され、辜氏の名は獨逸に於て名を馳せゲツチンゲン大學のネルソン教授の如きは推賛措かず、要するに東洋人にして氏丈けに歐米の思想界に影響を與へたるものは少なかるべし。

漢學に至りては二十六歳より始めたりと稱せらるゝも學者と迄は行かざるも己に詩も作り文章も作り張文襄公幕府記の如き僅かに二冊の小冊子なれども簡潔にして愛すべきなり。

氏は支那人より古怪なる人として評せられ一の癖ある人たることは事實にして、日本の料理屋に招かれて喃々するなど平然たる點あり、偏狹を以て見れば誤解を招くも、決して下卑たる人にあらず、寧ろ天心爛漫たり、事務の才はなけれども學に熱心なると漢唐の文明は日本に在りと公言するが如き態度は信念より來るものにして従つて多大の日本ビーキの學者なり。

懷德堂堂友會記事

大正十二年十一月四日午前九時懷德堂々友會創立總會を懷德堂講堂に於て開き會則を議定し會長、主幹及幹事を選舉す會長には全會一致を以て懷德堂教授松山直藏先生を推戴し主幹及幹事は松山會長の指名を以て左の如く當選せり。

主 幹 吉 田 銳 雄

(いろは順)

